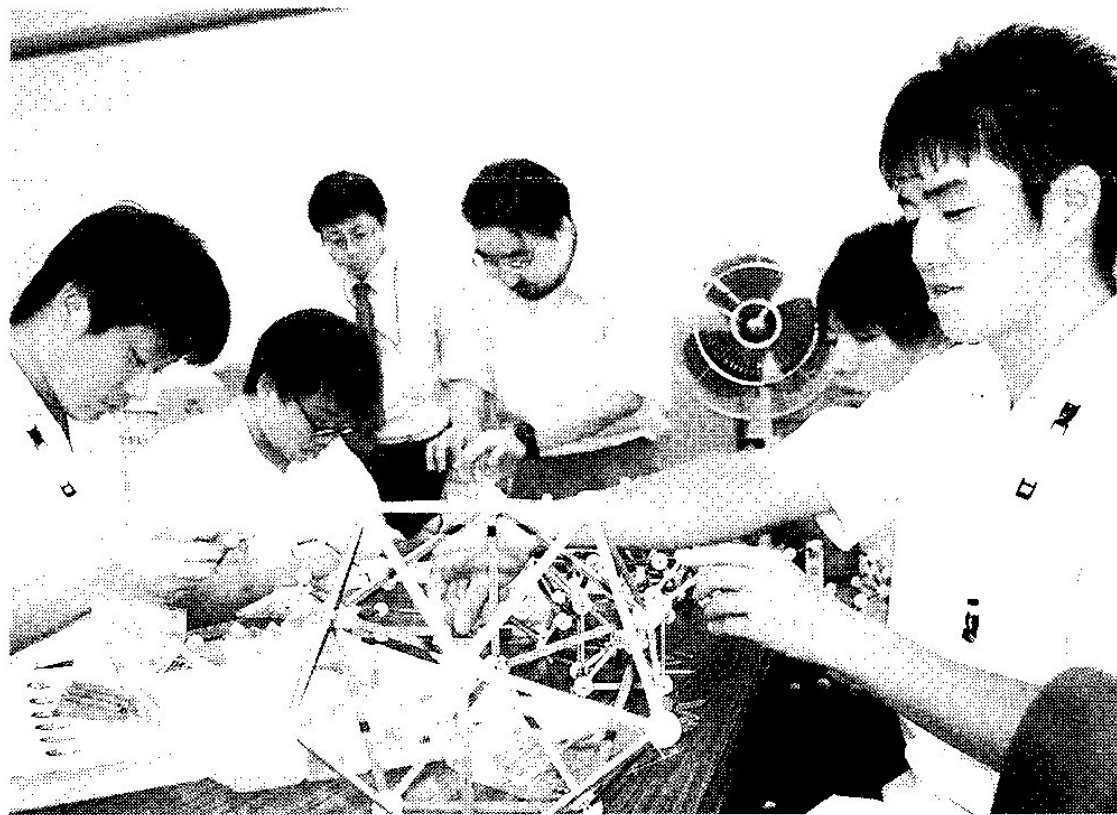


大学院研究者に学ぶ

豊明高 生徒ら面白さと再発見

数学的な洞察力や分析力の向上をと、県立豊明高校で3日、最先端の工学研究に取り組む名古屋工業大学・大学院の専門家による特別講座が開かれ、同校の生徒13人が参加しました。講座は学校と大学、企業などが連携して進める「サイエンスパートナーシップ」事業の一環で全5回。

2日めのこの日、生徒たちは幾何学模型用の教材を使い18種類の多面体づくりに挑戦。正三角形、正四角形、



大学の研究者に学ぶ高校生＝豊明高校で

類の正多角形を組み合わせた準正多面体を作りながら、空間を多面から観察し、そこに隠れた規則性を見つけ出すことなど幾何学の

面白さに触れました。さらにコンピュータグラフィックスを使った講義では数学的な分析と分類法を学び行い、多面体の頂点、辺、面の数の間にある関係式を導き出しました。

7日には同大学研究室の訪問も。「自分で見つけたルールに当てはめて答えを出せた」と満足顔の佐藤啓君。小林諒子さんたちは「答えの成否だけでなく、考える過程や方向性を評価してもらえた。大学の雰囲気にも触れることができた」と笑顔で話していました。